

三宅島の火山現象に関する研究 (その2)

Studies of Volcanic Activities and Their Accompanying Phenomena of Miyakejima Volcano (part 2)

ま え が き

1983年(昭和58年)10月3日に伊豆七島の一つである三宅島で突然火山噴火が発生してから1985年秋には2周年を迎えようとしている。その間、三宅島は関係機関及び住民の方々の努力により着々と復旧されつつある。また、火砕放出物により被害を受けた樹木等植生も一部回復しつつある。

国立防災科学技術センターでは、火山噴火発生直後の諸観測、調査に引続き、1984年、1985年にその後の変化について諸調査を実施した。

前報(国立防災科学技術センター研究速報, 51号, 1984年)では、1983年(昭和58年)10月3日の火山噴火に係わる地震と地殻活動、人工衛星利用による火山噴出物の分布域検出手法及び火山災害についてその概略を報告した。

この第2報では、1983年10月3日の火山活動に伴って発生した地震による崩壊に関して研究を行う基礎となる三宅島の傾斜分布状況と、植生など土地被覆別にそれぞれ火山灰、熔岩など火山噴出物が堆積した面積を人工衛星(ランドサット)のデータを利用し算出する手法とその面積について報告したもので、いずれも火山災害研究の基礎となる手法でありデータである。

なお、本シリーズ第3報では、第1報に報告した以降の三宅島における地震観測結果及び1983年の火山噴火に関して関係諸機関等により刊行された文献の目録及び空中写真撮影状況などの資料について報告する予定である。

(熊谷貞治)